

特集「新時代の分散処理とネットワーク (Web サービスとP2P)」の編集にあたって

鈴木 健 二†

ある Web アプリケーションが他の Web アプリケーションにアクセスし、必要な情報を獲得可能とする Web サービスの出現は、ビジネス分野において、進展するデータウェアハウスや Web データベース技術を駆使した新しいビジネスアプリケーション、さらには ERP (Enterprise Resource Planning) や CRM (Customer Relationship Management) などの社内情報システムにも適用されるなど、大きなインパクトを与えている。

一方、P2P サービスは、音楽、映像などのファイル交換サービスに使われる技術として着目されてきたが、著作権問題が新聞紙上を賑わせた個人の情報交換のみならず、ビジネス分野での活用も進んでおり、インターネットでは不可欠のものとなっている。

この Web サービスと P2P はインターネット社会が進展する上で、広域に分散する情報をうまく獲得・活用する技術として、また、すべての通信の基礎となる Peer-to-Peer (ピア・ツー・ピア) という 1:1 の技術としてともに重要で、分散処理とネットワークの新時代を裏付ける基本技術である。

本研究テーマについては、情報処理学会の「マルチメディア通信と分散処理 (DPS)」研究会が中心となって活発な研究が続けられてきており、年 5 回の研究会や DPS ワークショップの主催、DICOMO シンポジウムの共催、さらには ICDCS-2004 (The 24th International Conference on Distributed Computing Systems) の共催などの中でも、有益な議論を蓄積してきている。

これらの活動を踏まえ、今回の特集号は、Web サービスと P2P を中心として、さらには通信品質やプロトコルまで新時代の分散処理技術とネットワークに関する広範な研究全般について、最新の研究や開発事例に関する論文を一括して掲載することを目的として計画された。

本特集では、47 件の論文が投稿された。この投稿論文を、23 名からなる特集号編集委員会により、通常の査読と同じメタレビュー方式で査読した。審査過程で、論文取り下げが 3 件あったが、最終的に 22 件の優秀な論文が採録となった。採録された論文は、Web

サービスよりも P2P 関連の論文が多くなってはいるが、これらの主題に加え、モバイル通信、分散プロトコルなど、新時代の分散処理とネットワークに関する良い論文が掲載できたと考えている。本特集が契機となり、今後、Web サービスと P2P 関連の研究がますます活発になることを期待したい。

最後に、本特集号をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会、迅速な査読に協力していただいた査読者各位、ならびに、多くの作業にご協力いただいた学会事務局に感謝したい。

「新時代の分散処理とネットワーク (Web サービスと P2P)」特集編集委員会

- 編集長
鈴木 健二 (ケニスブロン)
- 編集委員 [敬称略, 50 音順]
渥美 幸雄 (専修大)
勝本 道哲 (NICT)
菊池 浩明 (東海大)
木原 民雄 (NTT レゾナント)
串田 高幸 (日本 IBM)
斉藤 裕樹 (東京電機大)
斉藤 正史 (三菱電機)
佐藤 文明 (静岡大)
重野 寛 (慶応義塾大)
柴田 義孝 (岩手県立大)
菅沼 拓夫 (東北大)
関根 徹 (日本 TNS)
滝沢 誠 (東京電機大)
西山 智 (YRP)
原 英樹 (千葉工大)
春本 要 (大阪大)
東野 輝夫 (大阪大)
平山 秀昭 (東芝)
藤巻 貴宏 (富士ゼロックス)
馬場 宗平 (NTT)
三宅 基治 (NTT ドコモ)
宮部 博史 (NTT)

† ケニスブロン